

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 9 日現在

機関番号：35309
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2011
課題番号：20592645
研究課題名（和文）高齢者の障害進行予防のためのサービス提供のあり方に関する追跡研究
研究課題名（英文）A follow-up study of the nursing care services on the prevention of disability aggravation among the aged
研究代表者
三徳 和子（MITOKU KAZUKO）
川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授
研究者番号：60351954

研究代表者の専門分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学
キーワード：要介護（支援）高齢者, 追跡研究, 寝たきり度, 認知症度, 死亡, サービス

1. 研究計画の概要

本研究は岐阜県郡上市において2003-2004年の2年間に1回でも要介護認定を受けた者2338人をベースライン対象者とし、その後の状況を前向きに追跡したコホート研究である。

対象者のベースライン情報は世帯情報、介護者情報、介護認定審査会情報（介護度、寝たきり度、認知症度、麻痺・拘縮、移動、複雑動作、特別な介護、身の回りの自立、意思の疎通、問題行動、特別な医療、診断名）である。追跡情報は主として介護認定審査会情報、死亡情報および介護サービス利用情報とし、追跡期間を2011年3月までとした。

情報収集方法は郡上市役所、郡上医師会、郡上ケアマネージャー協議会および介護関連施設と連携し実施することとした。

2. 研究の進捗状況

(1) 対象者のその後の追跡情報収集状況と膨大な情報の整理状況および情報の解析と公表については次のとおりである。

(2) 追跡情報収集状況

① 介護認定審査会情報は2009年3月まで追跡した。

② 住民課調査による死亡情報は2010年8月まで追跡した。

③ 介護サービス利用情報は月毎の情報を2009年3月まで入手した。サービス内容は居宅サービスの種類と利用頻度、介護給付費および入所に係る月毎の介護給付費である。

④ 新たに医療費情報を追加収集した。医療費情報は対象者の追跡期間中の月ごとの医療費情報で国保レセプトから入手した

(3) 膨大な情報の整理状況

収集した情報は膨大なものであり、現在情報の整理を行っている。介護認定審査情報の整理は終了し、現在は介護保険情報と医療保険情報のデータリンケージ作業中である。

(4) 情報の解析

これまでは横断的情報の解析であったが追跡情報の整理に伴い、多方面から総合的に追跡データとの関連からの解析を進めている。解析の主たる視点は下記のような

① 要介護（支援）認定者の性・年齢階級・診断・要介護状態別に、要介護状態の変化や生存状態についての詳細な整理を行う。

② 死亡や要介護状態の変化に対する調査開始時の介護サービス受給、介護者などの介護環境などの関連を分析する。

③医療費と介護給付費の使われ方の特徴と疾患などの関連を分析する。

④ターミナル期における介護サービス利用について、医療費との関連、それまでの利用状況、世帯や介護者状況と関連させて分析する。

(5) 情報の公表

2011 年秋期に郡上市の市役所関係各課、郡上医師会および郡上ケアマネ会などの協力機関、協力関係者への結果報告を予定している。また、地元関係者と実際の介護予防、介護度の進行予防対策に役立てるための検討会を行う。また研究成果を広く公表する予定である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)当初予定していた介護認定審査会情報、死亡情報および介護保険サービス給付情報の収集は地元の協力で円滑に進み終了した。加えてと医療保険による医療費情報が加わったことで、介護保険と医療保険の双方から要介護高齢者の健康状態を観察することが可能となった。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 追跡調査の継続研究の運営・管理、介護認定情報等のデータベースを構築し管理を行う。要介護(支援)認定者にかかわる大量の収集データについて、データ解析に適したデータベースの構築を行う。長期間のコホート研究においては、情報管理に多大な労力を必要とする。

(2) 郡上コホート研究のデータベース等を用いたデータ果分析

① 要介護(支援)認定者の性・年齢階級・診断・要介護状態別に、要介護状態の変化や生存状態についての詳細な整理を行う。

② 死亡や要介護状態の変化に対する調査開始時の介護サービス受給、介護者などの介護環境などの関連を分析する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

① 三徳和子, 藤田利治, 富田早苗, 神宝貴子, 森戸雅子, 長尾光城, 小河孝則. 中山間地域 A 市における要介護(支援)高齢者の要介護度, 寝たきり度および認知症度と死亡の関連. 川崎医療福祉学会誌. 20. 2. pp383-389. 2011. 査読有

[学会発表] (計 7 件)

① 三徳和子, 藤田利治, 坂本由之, 後藤忠雄, 富田早苗. 高齢者の重度化予防のためのサービス利用評価. 日本公衆衛生学会誌抄録集, p 345. 2011. 10. 28. 東京.

② 藤田利治, 三徳和子, 後藤忠雄, 坂本由之. 要介護高齢者の住宅改修サービス利用とその効果. 日本公衆衛生学会誌抄録集, p 345. 2011. 10. 28. 東京.

③ 後藤忠雄, 藤田利治, 三徳和子, 坂本由之. 寝たきり・認知症度が要介護高齢者の生命予後に及ぼす影響. 日本公衆衛生学会誌抄録集, p 345. 2011. 10. 28. 東京.

④ 三浦裕貴, 三徳和子, 藤田利治, 坂本由之, 丸茂紀子, 後藤忠雄. 要介護高齢者における認知症度と死亡との関連. 日本公衆衛生学会誌抄録集, p 496. 2010. 10. 22. 奈良市.

⑤ 丸茂紀子, 藤田利治, 三徳和子, 坂本由之, 三浦裕貴, 後藤忠雄. 介護保険の申請区分および施設利用の実態とその後の生存状態. 日本公衆衛生学会誌抄録集, p 496. 2010. 10. 22. 奈良市.

⑥ 三徳和子, 藤田利治, 坂本由之, 丸茂紀子, 後藤忠雄. 要介護高齢者の要介護度と死亡との関連. 日本公衆衛生学会誌抄録集, p 496. 2010. 10. 22. 奈良市.

⑦ 西岡洋子, 小谷恵理, 竹川美穂, 中倉萌, 岡部綾乃, 三徳和子, 在宅要支援・要介護認定者の死亡場所の実態. 日本在宅ケア学会総会抄録集. p137. 2009. 3. 15. 大阪市.